

# 真和



この写真は、会員の皆さんには馴染みのある、ある食べ物の栽培風景です。なんだかわかりますか？

年間テーマ

## 鱻精髓想全

感性能力を磨き鱻の探究が  
単位存在の本質を求めることにつながる  
農業を希求めて

- 新潟支部 みんなの実践
- 中野農園の実践
- オフィシャルWEBサイト開設
- はじめの一步
- お知らせ・勉強会案内・編集後記





表紙の写真が大きくなるとこうなります!  
正解は「ぶなしめじ」の赤ちゃんでした。

# 新潟支部 みんなの実践



2

一度も切り返さないで中まで発酵した堆肥  
点線内の黄色っぽい部分は、発酵前の状態



1

生体エネルギー資材を混ぜた  
菌床になるオガ粉

オガ粉のみ

いからし  
★五十嵐菌茸株式会社  
五十嵐 徹 (No.3521)

①の写真は、しめじの培地となるオガ粉に積もった雪の画像です。生体エネルギー資材が入っている左側は微生物が活動しているために雪解けが早いといった現象です。中野農園の田んぼの画像 (P12 参照) と同じ現象が起きています。

②の写真は、堆肥舎で堆肥を3メートル以上積み上げている画像です。左下手前にある小さく黄色っぽい塊は出立ての廃床の残りです。3メートル以上も堆積させておいて1回も切り返し(攪拌)をしないで中央まで満遍なく発酵している事は通常は絶対にありえません。生体エネルギー資材を使っていないと酸素の届かない中央部に発酵が進まない黄色い層ができてしまいます。これが、栽培前に生体エネルギー資材(真和 X、AEC、底力、岩森力、FOC)をオガ粉に混ぜ、FOC という酸素誘発材を使うことによって1回も切返ししないであの高さまで積んでいるのに満遍なく発酵できているのです!生体エネルギー資材のスゴイところですよ。

☆ぶなしめじ(通年)  
180g/1袋 150円 12袋入/箱1,800円  
(税・送料は別途)  
電話 025(362)6284 FAX025(362)6449



紹介動画

この容器の中に、オガ粉が詰められて  
ぶなしめじの菌が植え付けられます。



容器と菌床はここで殺菌されます。



5m近く積み上げられた、ぶなしめじの菌床



生体エネルギーとは →

生体エネルギー技術でできること



生体システム実践研究会  
公式WEBサイト

生体システム実践研究会

## 公式WEBサイトお披露目

<https://seitaisystem.com/>

サンテラスホールで開催された11月の本部勉強会にて、公式ウェブサイトの発表が行われました。スクリーンにはQRコードが映し出され、客席からたくさんの方がスマホでQRコードを読み取っていました。

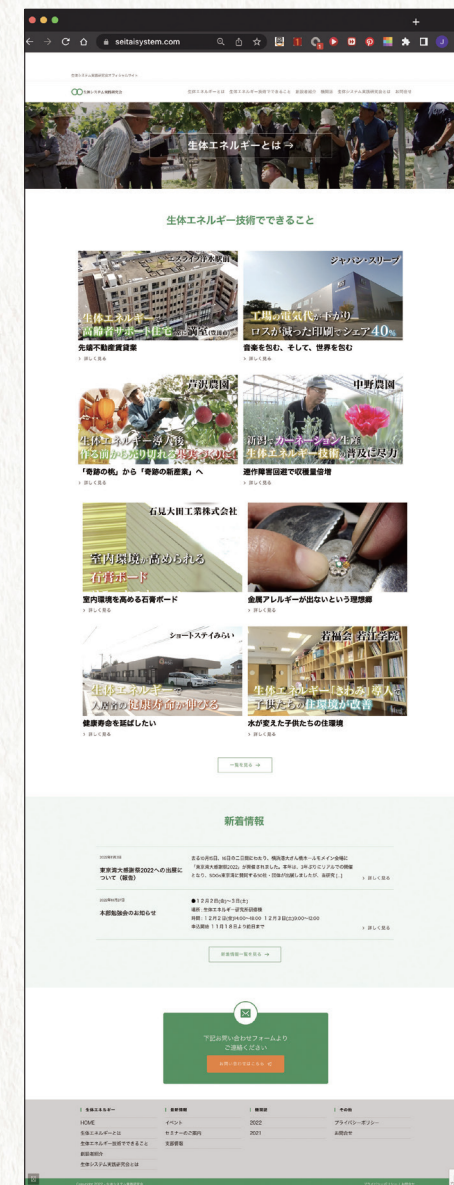


11月の本部勉強会でお披露目された「公式WEBサイト」。もう見て頂けましたか? 念願の!という方も多いと思います。このホームページを活用していくために、みなさんにお願いがあります。

- ①公式WEBサイトを見に来てください。
- ②ブログやSNSをやっている方は、是非紹介してください。
- ③ご意見、ご感想をお寄せください。(誤字脱字等も含めて)
- ④このサイトの有効活用と改善にアイデアのある方は是非お力添えください。

見てくださった方から早速ご意見も頂いています。読んでためになる情報はもちろん、当会らしい「情報的なプログラム」を提案して下さった会員さんもいます。例えば、視覚的な情報に加えてどんな情報を載せたら、沢山の人がみてくれるだろう?心が動いて共感してくれるだろう?話を聞いてみたくなるだろう?勉強会に参加して会員になりたいくなるだろう?各段階を微分して課題を明確にし、それに対応する能力を読み手に持ってもらうにはどうしたらいいか?WEB上のコミュニケーション場は、対面でのコミュニケーション場とは異なる「遠隔的なアプローチ」が求められ、まだまだ未開発の領域だと思えます。この環境をどう構築していくか?公式WEBサイトができたことで、私たち実践研究会会員に新たな実践の場ができたこととなります。

ということで、上記の①~④に加えて編集部では⑤を提案したいと思います。  
⑤当会らしい情報物語能力を活かしたホームページづくりへ







## 新潟・中野農園の実践

# 人類・宇宙・自然から必須とされる農業を希求めて

もと

Point 1 人類に求められる農業の姿

おそらく、私たちは真の農業の姿をまた見たことがない。私たち人類が生命を維持するために、土・水・大気・地球のあらゆる自然を酷使し、収奪の限りを尽くして栽培してきました。現状は、一センチできるのに百年から千年かかる貴重な土壌の砂漠化を猛スピードで進めている。土壌や大気、水だけではなく、これらを受受している私たちの肉体と精神も同じく猛スピードで砂漠化（劣化）が進んでおり、これを食い止めるためには、砂漠化するスピードを上回る緑化（進化）の技術が必要となる。人間の砂漠化（連作障害）の克服とは、肉体的には細胞の再生能力の若返りと精神性では豊かな発想力。

「生態系生体システムプログラム農法（以下、プログラム農法）」は、50年以上前から人類・宇宙・自然に必須とされる農業を指してきた。

私たち、生体システム実践研究会は「生産者としての農業者」と「農作物を食する消費者」約1000人の会員が「人類・宇宙・自然から必須とされる農業を求めて」活動している。今回はその一人、中野農園・中野孝治氏の実践から、「人類・宇宙・自然から必須とされる農業」の一端を垣間見ただけだと思っっている。



中野農園 中野孝治  
(新潟支部No.0184)

生態系生体システムプログラム農法実践者

1954年新潟県白根市生まれ。農業高校卒業とともに農業に従事。神奈川県で切り花カーネーション栽培の研修後、新潟でカーネーションの周年栽培をはじめ、稲作・果樹との複合経営を営んでいる。

1980年新潟県農業士認定。

1990年に生体システム実践研究会に入会。生態系生体システムプログラム農法でカーネーション栽培の連作障害の改善に成功する。

栽培品目：カーネーション、日本梨（幸水・二十世紀・新興・新高）、西洋梨（ル・レクチエ）、お米などをプログラム農法で実践。



旬

プログラム農法で栽培された作物は、風味が豊かで日持ちもします。

先日、取材の折にいただいた捧さんの「シナノゴールド」も香りが良く、歯応えもあって、瑞々しく、強い甘味の中にもしっかりと酸味があるととても味わい深い飽きのこないりんごでした。

このりんごの栽培ポイントは、硫黄の反応系を誘導し万有引力値、特に「求めると求める」の万有引力値を高める条件を整備することだと伺いました。そうすると、タンパク質が優位に構造化していくことで緻密な細胞となり健全な作物を作ることが可能になるのだそうです。

清水先生も以前開催された特別セミナーの中で、環境を高めるとアミノ酸・タンパク質・細胞の働きが変わると仰っていました。そういった環境（土壌条件）の中で、硫黄の反応系が誘導された現れの1つとして、旨味のある酸味を実現できたのだと考えられます。

これから収穫予定の「ふじ」も個性（タンパク質物語）をしっかり主張した、私たちにとって必要な価値を持ったりんごに成長していることと思います。楽しみですね！



紹介動画

★ささげ農園  
捧吉隆 (No.3350) ますみ (No.4744)

☆りんごふじ (12月)  
3kg 2,500円 5kg 3,500円(税・送料別途)  
電話 & FAX 0256(53)1029



旬



紹介動画

☆里芋 (12月下旬まで)  
【L】 3kg 3,300円  
【M】 3kg 3,000円 5kg もあります  
☆米 (コシヒカリ)  
白米 5kg 4,000円  
玄米 5kg 3,500円  
(税・送料は別途) 販売サイト

★新保農園 新保勝弘 (No.4503)

一般的に里芋は連作障害が出やすく、6年はあけなければいけないと言われていたところを新保さんは12年連作し続けています。連作障害を克服する能力をもった里芋は、さらに食べた人が「美人になる物語」を加算する空間装置の中で加算され届けられています。

畑で作業中の新保さんのお母さん  
80代とは思えない艶やかなさといも美人

電話 & FAX 0250(42)3387  
<https://tsuku2.jp/shinbonouen>



★能技株式会社 伊藤正直 (No.4375)

倉庫に入ると高い天井まで余す所なく積み上げられたお米がずらり。「この空間は能力がちがうよ」とある線を超えた先の空間に一步入ると…足の下からドドドと力が入ってくるのです。

ここは倉庫の土間を20cm底上げして、丸コンクリートを打設した場所。中央の目地を境に「世界一」と「宇宙一」がプログラムされた空間を体験しました。使った材料も作り方も同じ。プログラムの違いだけでまったく体感はずがった空間になっていました。これってとんでもないことなのですが、みなさんはどんな物語を想造しますか？

宇宙一  
世界一





カーネーションのハウス



通常ではありえないほどたくさんの実をつける中野農園の梨



慣行農法 プログラム農法

あらゆる栽培課程を解析して必要な処置を施していくが、あらゆる栽培課程を解析して必要な処置を施していくが、「土づくり」が一番重要なことに変わりはない。

中野農園では50年前からカーネーションを栽培している。プログラム農法による土づくりを長年に渡り実践してきた結果、栽培目的を実現できる土壌の粒子構造が形成され団粒化が進み、栽培過程で重要な三相分布を保持できるようにになった。すると、毛細管現象や緩衝能など土壌の機能性・能力性が向上した。その経済的効果は計り知れない。

一般的なカーネーションは年に一度、新たに苗を買って植え替える。中野農園では土づくりから計画的に行い、同じ苗を4〜5年植え替えをしなくても収量を減らさずに、水やりもせずにもったく品質を落とすことがない。毎年の苗だけで200万円近くかかるが、このコストの4年分に加えて人件費がかからなくなる。

さらに、プログラム農法の土づくりにより、土壌微生物が活性化されて、その炭酸ガスによって地温が上昇するため、温度が低い状態でも栽培ができる。カーネーションは最低8度以上必要とされているが、中野農園のハウスでは4〜5度でも栽培できる。この違いは灯油代200万が50万円ですむという経費削減効果を生む。

気温の変化に強いのは冬の低温期だけでなく、夏の高温期も同様だ。このことを「緩衝能」といい、栽培における許容範囲が大幅に広がることを言う。水を例に上げると、一般的なお風呂では快適に入ることでできる温度帯が38〜42度。ここに水誘導翻訳装置きわみの水を使うと、34〜46度くらいまで快適に入ることのできる温度帯が広がる。ハウスの中の快適温度がこれだけ広がると植物に負荷をかけることなく栽培することができ、品質を落とさずに済む。

全般的に適期の幅が広がるのも緩衝能を高めることができたお陰と云える。

## 農業者が取り入れる理由

「人類に必須とされる農業」となるためには、生産者と消費者の双方に求められる必要がある。

まずは生産者がつくってこれない消費者は買うことができない。しかし、消費者が買わないものでは生産しても売れない。当たり前の構造だが、この両者の関係性が成立する必要がある。

人類・宇宙・自然に必須とされるプログラム農法を農業者が取り入れる理由を、プログラム農法を30年間実践してきた中野農園の事例から挙げてみよう。

## 単位面積当たりの収穫量が2〜4倍に

中野農園は先代の稲作と比較して、栽培面積は変わらない中、お米の収量が2倍（先代7俵→現在14俵）、果物は先代時代の3〜4倍穫るようになった。

梨は葉っぱの枚数によって個数が決まり、通常は20〜30センチごとに1個を残して剪定していく。しかし、中野農園では1個残す所に3〜4個しっかりとした果実を実らせている。こんなことをすれば通常は玉が小さくなり、木が弱って次の年は収量が激減してしまう。これができるのは計画的に土づくり、必要なだけの資材を土にいられているからできることなのだ。

(参考：下記「土壌をつくり計算例」)

## 農業の一大問題、連作障害を克服する

中野氏がカーネーションを初めて10年が経った頃、今まで何も問題がなかったカーネーションがすべて枯れてしまった。連作障害である。何人も専門家に話を聞いて

## 土壌づくり計算例

○実践面積：12.4㎡ (0.8m×15.5m)  
1000㎡ (10a) の80.65分の1  
栽培目的：眼のたんぱく質を機能化させる葉草二十日大根

■栽培必要量算出		■投入量	
二十日大根 (可食部) 100g当たりの成分含有量 (七訂日本食品標準成分表より)		土壌塩基飽和度 + 栽培必要量 + 栽培飽和度 - (事前に投入分)	
Ca 21/mg	Mg 11/mg	K 22/mg	P 46/mg
Fe 0.3/mg	Zn 0.1/mg	Cu 0.02/mg	Mn 0.005/mg
(1kg当たり) 0.21g	100kg当たり) 21g	1000kg当たり) 210g)	
■収穫目標 二十日大根 4000kg (10a)		■良質堆肥 30t当たり投入量	
成分 (/t) × 4t (収穫量) × 3 (可食部1+葉2) × 5倍量 (能力達成量)		硫安 600kg (成分量 126kg) 過リン酸石灰 600kg (成分量 102kg) 硫酸第一鉄 80kg (成分量 16kg) 硫酸亜鉛 54.5kg (成分量 12kg) 硫酸マンガ 38.7kg (成分量 12kg) 硫酸銅 16kg (成分量 4kg) モリブデン酸ナトリウム 307.7g (成分量 120g)	
Ca 210×4×3×5=12600g÷1000=12.6kg ÷80.65=0.16		■生体エネルギー応用資材投入量	
Mg 110×4×3×5=6600g÷1000=6.6kg ÷80.65=0.082		・仕事エネルギー準拠位置設定 300,000A	
K 220×4×3×5=13200g÷1000=13.2kg ÷80.65=0.164		真和X 483袋/10a当たり 6袋/12.4㎡当たり	
P 460×4×3×5=27600g÷1000=27.6kg ÷80.65=0.34		AEC 483袋/10a当たり 6袋/12.4㎡当たり	
Fe 3×4×3×5=180g÷1000=0.18kg ÷80.65=0.002		底力 161袋/10a 2袋/12.4㎡当たり	
Zn 1×4×3×5=60g÷1000=0.06kg ÷80.65=0.0007		岩森力 483袋/10a当たり 6袋/12.4㎡当たり	
Cu 0.2×4×3×5=12g÷1000=0.012kg ÷80.65=0.00015		良質堆肥 24.2t/10a当たり 300kg/12.4㎡当たり	
Mn 0.05×4×3×5=30g÷1000=0.03kg ÷80.65=0.0004			
■露地野菜主要作物の施肥基準 (夏まき目標収量4000kg/10a)			
N:15kg P:20kg K:15kg Ca:55kg Mg:15kg	耕土 10cm × 3 (30cm作土) × 面積		
	・N 15×3=45÷80.65=0.56		
	・P 20×3=60÷80.65=0.74		
	・Ca 55×3=165÷80.65=2.05		
	・Mg 15×3=45÷80.65=0.56		
	・K 15×3=45÷80.65=0.56		

## あらゆる面で経営に寄与する栽培方法

新潟は海抜70m、高温多湿で病気が出やすい土地柄ゆえカーネーションの栽培は難しいとされている。こうした土地でも土づくりで植物の能力を最大限に引き出して免疫力を高めることで、そうした問題もほとんど出ることがない。実際に一般的なカーネーションは香りがほとんどしないが、中野農園のカーネーションはいい香りがする。そしてこの香りがアレロパシー効果を生み、虫が寄り付きにくくなる。

ご紹介した一側面だけみても不確定要素が少なくなり、ほかの農園が収穫量が激減させる中でも中野農園は今ままで以上に穫れることから、安定した収入と経営をすることができている。

例えば新潟では昨年は梨が不作で、周りは例年の10%〜60%程度の収穫量だったところ、中野農園は120%の収量を獲っている。それだけの不確定要素を克服するだけの力を土と中野氏本人が持つことができていた証だ。もちろん結果を出すためにはその前提を作るために先行投資する必要がある。

## 土づくりと環境づくりでハウスが傷まない

驚いたのは、34年前に中野氏が自分で建てたハウスの畝の枠板を34年間ずっと変えていないという話。通常は4〜5年で傷んで変えるのが一般的という。この現象を中野氏は「微生物の棲み分けができてきているから」と説明する。枠板の木を腐敗させる木材腐朽菌がいたとしても機能しない環境になっていると考えられる。さらには枠板が原子レベルで活性化されて、侵されぬ能力を持つようになってきている側面もある。

耐久性が向上しているのは枠板だけではない。鉄骨の



# 生態系生体システムプログラム農法のお米 (中野農園)

分析項目	(A) 中野農園米 (平成 27 年 3 月分析)	(B) 中野農園米 (命仁) (平成 21 年 3 月分析)	(C) 慣行栽培米 (平成 21 年 3 月分析)	増量比率 A/C	増量比率 B/C
葉酸	40 μg/100g	29 μg/100g	30 μg/100g	133%	97%
ビタミン B6	0.41mg/100g	0.44mg/100g	0.38mg/100g	108%	116%
ビオチン	4.9 μg/100g	4.8 μg/100g	5.3 μg/100g	92%	91%
イノシトール	243mg/100g	175mg/100g	196mg/100g	124%	89%
ナイアシン当量	7.28mg/100g	7.28mg/100g	6.87mg/100g	106%	106%
ナイアシン (ニコチン酸相当量)	5.66mg/100g	5.75mg/100g	5.60mg/100g	101%	103%
トリプトファン	0.10g/100g	0.092g/100g	0.076g/100g	132%	121%
アデニン	0.01g/100g	0.01g/100g	0.01g/100g	100%	100%
グアニン	0.02g/100g	0.02g/100g	0.01g/100g	200%	200%
シトシン	0.01g/100g	検出せず	検出せず	1000%	

※ A/C～慣行栽培米 (C) を指数として中野農園米 (A) の増量比率

※ B/C～慣行栽培米 (C) を指数として中野農園米 (B) の増量比率

アミノ酸	(A) 中野農園米 (平成 27 年 3 月分析)	(B) 中野農園米 (命仁) (平成 21 年 3 月分析)	(C) 慣行栽培米 (平成 21 年 3 月分析)	増量比率 A/C	増量比率 B/C
グルタミン酸	1.11g/100g	1.08g/100g	0.85g/100g	131%	127%
アスパラギン酸	0.62g/100g	0.58g/100g	0.50g/100g	124%	116%
アルギニン	0.56g/100g	0.51g/100g	0.41g/100g	137%	124%
ロイシン	0.53g/100g	0.50g/100g	0.41g/100g	129%	122%
バリン	0.38g/100g	0.36g/100g	0.30g/100g	127%	120%
アラニン	0.37g/100g	0.35g/100g	0.30g/100g	123%	117%
フェニルアラニン	0.34g/100g	0.33g/100g	0.26g/100g	131%	127%
セリン	0.33g/100g	0.33g/100g	0.26g/100g	127%	127%
グリシン	0.32g/100g	0.30g/100g	0.26g/100g	123%	115%
プロリン	0.31g/100g	0.30g/100g	0.25g/100g	124%	120%
チロシン	0.29g/100g	0.27g/100g	0.21g/100g	138%	129%
イソロイシン	0.26g/100g	0.24g/100g	0.20g/100g	130%	120%
リジン	0.24g/100g	0.24g/100g	0.21g/100g	114%	114%
スレオニン	0.23g/100g	0.23g/100g	0.20g/100g	115%	115%
ヒスチジン	0.18g/100g	0.17g/100g	0.14g/100g	129%	121%
シスチン	0.16g/100g	0.15g/100g	0.13g/100g	123%	115%
メチオニン	0.15g/100g	0.15g/100g	0.13g/100g	115%	115%
トリプトファン	0.10g/100g	0.09g/100g	0.076g/100g	132%	118%
合計	6.48g/100g	6.18g/100g	5.10g/100g	126%	120%

※分析機関：財団法人 日本食品分析センター

- (A) 中野農園米：新潟産コシヒカリ (平成 26 年度産)
- (B) 中野農園米 (命仁)：新潟産コシヒカリ (平成 20 年度産)
- (C) 慣行栽培米：新潟産コシヒカリ (平成 20 年度産)

## ◎中野農園実践ほ場栽培歴

【実践年数】22年 【実践開始年】1993年4月

【生体エネルギー応用農業資材活用状況】

1993年～1996年 真和X 5袋、AEC 5袋施用 / 10a 当たり

1997年～真和X、AECそれぞれ毎年0.5袋 / 10a 当たり加算して施用

2015年～真和X 14.5袋、AEC 14.5袋施用 / 10a 当たり

※2008年～2014年 毎年6月下旬頃に稲の成長促進を目的として追肥的に底力 3袋 / 10a 当たりを施用

本来、お米は 2000 年前の発掘された粉でも発芽するほど抑制の活性力が高い植物なのだが、能力が低下すると種を残そうとする力が働いてすぐに発芽してしまう。プログラム農法の稲は、抑制の活性力が高いので収穫後すぐに芽が出ることは少ない。この抑制の活性力は「眠りの活性力」にもなる。



34年前から使い続けている桝板

## 肉体と精神の健全化に寄与する

ハウスにもサビがでず、通常10年で張り替えるビニールも33年張り替えていない。あらゆる設備において、一般的な耐久年数の2～3倍はもつとするならば、この点だけでも有利な経営をすることができている。

中野氏自身、30年前よりも若く見えるという。40代で病気をしたのもあるが、私を知るこの13年でも確実に若く見える。病気を克服するために食と環境を高め続け、自ら体感したことを後進に伝えている。中野農園のお米でおむすびをつくと、それだけで満足する。ジャンクなものはいくら食べても飢餓感が増幅するだけだが、本当に満たされる食は量が少なくても満足できるし、体が欲すればいくらでも食べることができている。

中野農園のお米は、一般のお米と比べて含有するアミノ酸量も増えている。これは原子レベルでの引きつける力が高まり、比重があがってずっしりしかりしたお米になっている証拠となる。これはプログラム農法の作物はたくさん食べなくても満足感を感じる理由の一つでもある。

次ページのデータを見てもうとうとわかるように、私たちがとって必要不可欠なアミノ酸であるグルタミン酸やアスパラギン酸、ロイシン、グリシン等が慣行栽培のお米と比較して約20%以上多く含まれている。これらのアミノ酸は、知能を高めたり、中枢神経を守ったり、筋肉の増強など老化防止に関与していると言われ、私たちにとって不可欠な物質である。さらに体内では誘導体として重要な役割をする葉酸が多く含まれている。

中野農園では、農業で特に重要なリン(P)、硫黄(S)、鉄(Fe)と考えており、超優性遺伝子支配、五大

機能のエネルギー準位を上げるために必須アミノ酸に必要な元素を投入している。質の高い必須アミノ酸を作るには、微量元素も欠かせない。そのために、鉄、亜鉛、マンガン、銅、モリブデンを投入している。

お米以外でも近い現象が見られる。以前に中野氏に「この梨は半年経っても美味しく食べられるよ」と言われて、自宅の冷蔵庫で半年寝かせて実験してみたのだが、確かにほとんど変わらない状態で美味しく食べられた。これを「抑制の活性」と言い、時期が来るまで実を熟成させて食べてもらうのを待つ精神性を植物から引き出しているといえる。プログラム農法のりんごなども、切ったときより翌朝のほうが美味しくなるという。プログラム農法の作物では、鮮度と熟成度の関係に一般常識が通用しなくなる。自然の摂理と土や植物の可能性を追求していくと、今まで見えなかった世界が見えてくる。

## 働く人も元気になる土壌

さらに10ページのデータを見ていただきたい。これはプログラム農法で栽培された大豆の抗酸化力を比較したもので、同じ大豆でも栽培方法によってその能力が大幅に違うことを示している。同じ作物でも、栽培方法によって抗酸化力が大きく変わる事例だ。

プログラム農法で長年栽培されている圃場に入ると、瞬間に場が変わるのがわかる。呼吸は深くなり、血流が行き渡って指先が赤くなっていく。自然の摂理を応用し



## FTIグループ 大豆の抗酸化力

サンプル名	スーパーオキシドラジカル	・OH	一重項酸素	ビタミンE	たんぱく質
ご依頼品	302.1	20180.5	2335.5	25.9g	34.6g
ご依頼品 (2013年1月)	273.2	12008.7	2259.2	26.8g	34.2g
ご依頼品 (2012年6月)	73.1	8042.5	1101.8	25.2g	33.3g
大豆 (平均値)	42.8	6794.6	1233.4	25.1g	35.3g

プログラム農法の大豆の抗酸化力は、大豆の平均値と比べて、スーパーオキシドラジカルで約7倍、ヒドロキシルラジカルで約3倍、一重項酸素で約1.9倍の数値となっており、一粒の大豆の能力が明らかに高まっているのがわかる。(最上段の大豆で比較)

て植物が生命力を高めることのできる場合は、人も生命力を高めることができる。自然とご自分で働く人の肉體も失っている機能を取り戻していく。この反応は人だけではない。次の章で紹介する動物たちも同様だ。この作用を建築に応用すると、人の心と体を健全に誘導できる家ができる。

### 心が反応する「場」

50年前、中野氏が就農してすぐに自分で建てたハウスの中に入ると、体が活性化するだけでなく「心」が反応

ろん、そのためには実践者の準拠位置と想像力が必要なのは言うまでもない。半信半疑で真似をしたところで、ここまでの結果を出せる人は多くはないと思う。

環境によって稲の能力を引き出し、その能力を発現させるために必要な元素とエネルギーを与えてあげること、植物は人の想い(プログラム)と共振して共同想像してくれるようになる。

### 植物との新たな関係を想像する

アメリカの三大発明家の一人に植物の魔術師と称されるルーサー・バーバンク(1849~1926)がいる。もう2人はトーマス・エジソンとヘンリー・フォード、共に誰もが知る人物だが、バーバンクのことは日本では馴染みが薄い。

3000種にもぼる新しい植物の品種を生み出したバーバンクの実績の中でも「トゲのないサポテン」は世界を驚かせた。

サポテンのトゲは、動物たちに食べられないためのサポテンが身にまとった鎧だ。サポテンは水のほとんどない温度差の激しい荒野の砂漠でも育つ能力を持ち、その葉や実は人間や家畜の食べ物にもなる。そう、サポテンを食料問題の解決の糸口にしたいとバーバンクは想像した。しかし食料にするにはトゲ以外にも、繊維が多く消化しにくいという欠点もあった。これを克服するために、世界中から何万にも及ぶサポテンを集めて交配を繰り返していった。5~6年経っても一向に改良は進まず、サポテンのその強情さを快癒するために何が必要か問い続ける。

バーバンクは「サポテンで実験を行っている間、私はしばしばサポテンに語りかけ、愛の振動を与えた。私はいつもこう言った。『お前たちに恐れるものなどないん

する。中野氏と共に歩んできたハウスの50年間の喜びや苦悩が、力強さとともにそのまま飛び込んでくる。34年前に建てたハウスのそれとは比べ物にならない。半世紀という歴史を、ハウスの場が雄弁に物語ってくれる。

圃場はそこで農作物を栽培する「人」をそのまま表す。畑に入ると涙が出てくるような場で栽培された農作物は慈しみそのもの。こうした農作物を食べることこそ、肉體だけでなく精神をも育んでいく。そして私たちが目指す真の農業はこの更に先にあるはずだ。

### 経営的側面

慈しみを感じることでできる農作物を無碍にすることはできない。料理をしても、皮まで無駄にすることなく、少しでも食べてあげたい。そうした気持ちで自然と湧き上がる。

消費者がここまで感じることであれば必ずリピーターになってくれる。リピーターが増えれば年を追うごとに顧客は増えていき、特に果物は毎年それしか食べない人もでてくる。

もちろん、何もしないでラクして顧客が増えるわけではなく、地道な営業努力あってこそだ。

## Point 2 自然界に求められる

1章では、プログラム農法によって人(特に生産者と消費者)が享受する利点をあげた。2章では人だけでなく、動植物、微生物、周辺環境に与える影響をみていく。

だよ「身を守るトゲは要らないよ。お前たちを守ってあげるから」

人も生きていく中で自分の身を守るために様々な鎧を身に付けていく。その鎧はその人の「素(虚心)」のありようから、知らず識らずのうちに離れていってしまう。虚心から離れた不自然なありようが、さらに新たな鎧を作り出す。その悪循環から抜け出すには、自分が鎧を着ていることに気づくしかない。

バーバンクは、私たち生体システム実践研究会、そしてプログラム農法実践者の先駆けをしてくれた先人だと思える。彼の自然界と共同想像して植物に新たな物語を託すありようは、「人類 宇宙 自然から必須とされる農業」を志す私たちの価値観をより深めてくれる。

### 白鳥や小動物がやってくる田んぼ

中野農園の田んぼには、ある時から冬になると渡り鳥の白鳥が羽を休めにやってくるようになった。

動植物は私たち人間よりも「場のエネルギー」に繊細だ。自分たちに必要な場を感覚的に察知している。人の生体エネルギー準拠位置が高まってくると、子供や動物が自然に寄ってくる。私たちが大自然に癒やされに行くのと同じ感覚だ。

土壌から収奪の限りを尽くす一般的な圃場には白鳥どころか、小動物もいなくなってしまう。プログラム農法を実践する会員はこう言う。「40年前には田んぼで掴まえ放題だった蛙が、30年くらい前からいなくなってしまう。それがプログラム農法を始めて数年後、うちの田んぼにだけ蛙が戻ってきたんです」

中野農園の田んぼにも、小動物がたくさんいる。「有機農法の田んぼにも小動物はいるが実は初期にはいない。初期はガスが湧くから卵があっても生きられず、ガ

### たわわに稔った稲

中野農園の稲は収穫前になると倒れていると思わんばかりに頭を垂れる。粒数が大きくて数も多いので、頭が垂れるのだが、根がしっかりとっているために倒れることはない。まわりの田んぼとくらべてもその違いは歴然である。

鈴なりになった梨も同様だ。通常ではありえない状況を、必要な条件を施してあげることによって実現できる。もち



中野農園の田んぼにやってくる白鳥と小動物たち





プログラム農法

慣行農法

すが落ち着いてから小動物がでてくる。でもプログラム農法ではそのガスを利用する微生物も活性化するため最初から小動物がいるんだよ」

動植物や自然界は嘘をつけない。自然界が必要とする環境は、なによりも信頼ができる。「人類・宇宙・自然から必須とされる農業」を目指す、プログラム農法の真骨頂、そして人類の理想はこれを具現化できるのだ。

### 微生物も活性化する土壌

動植物だけでなく、微生物の働きも変わってくる。プログラム農法の圃場は微生物の働きが高まることで地温が目に見えて高くなる。写真右側の雪解けしているのが「プログラム農法の田んぼ」。左側の雪解けしていないのが「一般的な慣行農法の田んぼ」だ。生体エネルギー資材を使っていると、地温が高くなる傾向にある。地温が高くなると、有機物の分解が促進されて良質な土壌を短期間につくることができる。そして低温でも栽培ができる利点もあり、新潟では寒すぎてつけれないとされていたパッションフルーツをプログラム農法で栽培していたこともある。プログラム農法で栽培に適した環境を土壌につくることが新たな産地をつくることもできるのだ。

### 周辺環境をも高めよう

中野農園と同じ新潟に、ある食品工場があった。この排水は保健所から目をつけられる状態で大きな問題となっていた。しかし、この上水に生体エネルギー技術を応用した水誘導翻訳装置きわみを導入すると、上水しか変えていないにもかかわらず排水の問題は改善されて、

工場の敷地や排水先に動物たちが集まってくるようになった。鮭が排水口にまでのぼってくるだけでなく、清流に暮らすシンボルでもあるオニヤンマや鮎までもやってくるようになったのである。

清流に透き通っていて綺麗な水を私たちは想像するが、動物たちにとっては「自らの生命力を高めてくれるエネルギーの高い場」をもとめていることがわかる。

田んぼや畑に生体エネルギー資材を施して土壌をつくることは、巨大な浄水器を土壌につくることになる。そこを通過してくる雨水やそこから発せられる炭酸ガスや植物が発する酸素は必然的にエネルギーの高いものとなり、周辺環境を改善していく。「コンクリート資材の力丸をつかったブロックをつくり、それを排水口に置いただけで下流に弾が戻ってくる実践者」の話は各地で聞かれる。

土壌を高め、植物を高め、それを食する人を高め、環境までも励起していくプログラム農法の視点は広く深い。人を良くするためには食と環境を高める必要がある。食を高めるためには土壌を高める必要がある。土壌を高めるためには、周辺環境をもあわせて高めていかないと周りにエネルギーを持っていかれる。結果的に「全方位よし」の処置を施さない限り、1つの視点だけでは今の社会問題を解決することはできない。だからあらゆる視点と必要な技術をもって産業を営むことが求められる。

問い合わせ先 中野農園

電話/FAX 025 (280) 2058

nakanof@saagreen.ocn.ne.jp



中野農園の動画

## Point 3 宇宙に求められる

プログラム農法の実践者が圃場に生体エネルギー資材を大量に撒いてきた後に会うと、その人が輝いてみえることがある。これは生命の息吹をかけられた自然界（圃場や植物）の歓びの声が、そのまま実践者に届いて生命力を高めているようにさえ感じられる。更にその人が発する放射エネルギーでまわりの環境や人をも高めていく循環を生み出すことができる。これは目には見えないが宇宙自然への陰徳となり、その人の能力を高める支えとなってくれる。こうした経験を重ねていくことで、宇宙自然が後押ししてくれる感覚を持つようになること。ある先人は悟りについてこう説いている「悟りとは、神の愛を受け、それを与える能力である」。佐藤先生が長年かけて実践してきた道もこの上であり、真のプログラム農法の実践者、そして当会会員の目指すところはここなのだろうと感じている。

勉強会の中でこうした話はほとんどされることなくなくなってしまったのも、精神性に重きを置きすぎると「宗教的」と受け取られる時代があったからだ。とはいっても「愛なき行為は無に等しい」のと同じように、人格、霊格の精神性を伴わない能力は抛り所を失い、迷走の限りを尽くすことになる。佐藤先生が商品だけを独り歩きさせないで、学びとともに使ってほしいと願っている真意はここにある。その想いを、その真意を、私たちはどこまで感じることができているだろうか。

### 神の御心に沿って生きる

生体エネルギー哲学的加学は、私たちが生きていくた

めのひとつの指針だ。その指針をもって「どう生きるか？」を私たちは問われている。

想定量子宇宙論応用課程では45分の正座の後に、佐藤先生の講義が行われる。この講座は生体エネルギー哲学的加学の中でも根本となる場になっていて、参加者も「人間の精神性と存在のありよう」に重きを置く人たちが集まっていると感じている。

「神に従う路」「神の教えの途」「神の教えを貫く」この3つのありようを体現し、「無の扉をひらく」ことが、じつしみの社会を想造するためには必須であり、会員の中から何人かでもそうした人材が出てくることを佐藤先生は願って30年以上教え続けてきたことである。

### 言葉とコミュニケーション、そして想造へ

「この宇宙を想造した存在（神）がいる」と仮定したところから始まる「宇宙論的証明」は生体エネルギー哲学的加学の始まりでもある。どんなものはわからなくても概念は「それ」を定義することができる。佐藤先生は「概念」としての「それ」を事細かに定義していく。五感によるビジョンで定義できることは限られている。言葉を当たり前につかっている私たちに、言葉以外のコミュニケーションを想像することは難しくなっている。ビジョンを拡張して詳細なイメージをつくり上げて想造するため、そして己以外の何者かと共有するために、言葉と概念は生み出されたのかもしれない。

自然界の情報用語能力をあらわす多くの徳字も、概念を一つの文字に落とし込んだ個であり、想造の産物としてそこに生命の息吹が吹き込まれた意識体となりうる。想造主の分け御霊として生を受けた私たちにはそうした能力が備わっている。佐藤先生はそう考えて「想造力」をどこまでも高め、使いこなそうとされている。それは人類が進化していくために必要な道だと確信しているか

らだ。しかしその「想造力」をつかうのは想造主である私たち人間であり、その準拠位置によっては良かれと持ったことも劣化の道をまっしぐらに進んでいることも多々ある。私たちにできるのは、そうした先人たちの否定するのではなく、その経験を糧にして進むことしかできない。そして、たとえ今の社会を後進に否定されることになっても、今できることを、それぞれの物語を、今この時を生きていることしかないのだ。

### 口数が少なくなる次元

徳字の中には「少+口」と書く文字がたぐさんある。例えば、無形の前提にある能力の「竅」<sup>くわう</sup>、新しいものを生み出す「鑄」<sup>ちゆう</sup>、「心の絶対値」<sup>じやく</sup>、「エネルギーの絶対値」<sup>じやく</sup>。「少+口」の真意は、宇宙自然の御心に沿う生き方をしようになると、段々と「口」が落ちていく、「口」の自己主張がなくなった先に次元が変わる意があるという。

私たちの一挙手一投足は、環境と己の反応によってほぼ無意識に営まれている。そこに意識を向けると、自分の発する言葉の裏にあるもの、無意識に動かしている体の奥にあるもの、今まで見えなかった己の反応系がよく見えるようになる。宇宙自然の御心に沿うようになる。道教の「無為自然」はこうした境地を表しているのだろう。

### 宇宙に求められる「神」、神に求められる「人」

神が何かを求めているか。佐藤先生は神がこの宇宙を想造したとするならば、何がしかの目的があると考えた。それが何かはわからないが「模」<sup>まう</sup>とした。最初はこ





の言葉の真意を読み取れなかった。しかし、今では佐藤先生のつくった概念の中ですば抜けていて感じているのはこの言葉だ。「禊」を私はこう捉えている。「始祖源満」始まりの祖の源を満たすもの＝宇宙自然の御心に沿うこと。そして「じゅうしみの」もこの先にしかないはずだ。

## 宇宙に求められるカーネーション

宇宙自然の御心に沿うこと、そして「禊」を具体的に形としてみることは難しいが、生体エネルギー応用商品はすべて「禊」の元に想造されている。生体エネルギー技術を活用した様々な産業で人智を超えた反応が起きているのも、人類の集合意識(常識)を超えた反応が「禊」のもよびに起きていくからだと考えられる。真和7月号の表紙にも掲載した「1輪の花でガンをな

おそう」を掲げたカーネーションの写真。これは読者からの反響が大きく「涙がでてくる」と伝えてくれた読者も一人や二人ではない。大いなる何かに魂が触れると自然と涙が溢れてくる経験をみなさんもしたことがあると思う。このカーネーションも宇宙自然の御心、そして「禊」の体現なのだ、その涙が伝えてくれているのだと思う。

中野農園のカーネーションを両親に贈っていた時期がある。通常は2ヶ月近く咲き続ける驚異的なカーネーションのだが、1週間も持たずに枯れてしまった。

実はこのとき、家族の問題で両親は大混乱に陥っていた。心配かけまいと私たちには気丈に振る舞ってはいたが、精神的にかなり疲労していたのだと思う。この状況に中野農園のカーネーションは自分の生体エネルギーを差し出して両親を助けてくれた。その結果、2ヶ月もつ切り花が1週間その役割を全うした。人の目はごまかしても自然の目はごまかせない。必要な存在に自らの生命力を差し出すことのできる精神性をもった植物が存在する。そしてこうした植物を栽培できる可能性をもった農法「生態系生体システムプログラム農法」がある。このカーネーションはまさに「少+口」の存在なのだ。

## 食とごんちの役割

このカーネーションのように「少+口」を体現した植物や多くの存在に私たちは生かされているという実感が芽生えてきている。こうした存在に私たちは見合う生き方ができているのだろうか。・当会の目指すところは、人類社会の進化と想造主としての人類の可能性をどこまでも開花させること。これを各々の産業で開花させていくために必要なことは何だろうか。当会では「ごんち」と「食」(ごんち)「ごんち」(自宅の能力)

皆さま初めまして。大阪の前田良司と申します。



まえだ りょうじ  
**前田 良司**  
(大阪府・電話4943)

私の生体システム実践研究会のご縁は、平成22年、東大阪の竹田さんより「まだ地元八尾で農事の役員されていますか？」と質問の連絡を頂き「今年、地域で農事の役は請けております」「じゃあ農業ですばらしいシステム、勉強会があるので参加してみては？」と云う事でしたが、勉強会参加ではなく、いきなり長野県本部の佐藤先生のもとへ産業相談で訪問いたしました。

到着して今でもはつきりと印象に残っておりますが、浅間山麓の景色のすばらしさと、圃場の土が黒々しく肥沃に思いました。あと大阪とは空気の良さが全然違うのはもちろん、何となくですがマルセイさんの場の気が良いのも感じました。

その後、竹田さん、荒川さんに佐藤先生と面談させて頂き、私の地元での計画図を佐藤先生に確認して頂くなか「この場所は果樹が良い」とか方角の良し悪し等アドバイスを頂き、その後約3年地元で農事を営みましたが、現状は地元を離れ、奈良県大宇陀で綿作り、大阪府千早赤阪村でソバ作りに挑

戦っています。

特に今年奈良県での綿作りは苦難の連続で、おおいに悩まされたが今年も生体エネルギー農業資料を活用し大宇陀で3年目の挑戦、実践をしていきます。また、今年の失敗を再度検討し諸先輩にも意見を頂き最高の綿作りを実践していく所存です。

農業、産業に生体エネルギー資料を使用し最高の品物を作るという事はもちろんですが、自分の生活で家庭、事務所にいる時間も長いので、住環境改善セットを家、事務所に各10個ずつ配置していますが、長男は住環境改善セットを配置してから肩が軽くなる等の変化があり、あと家族全員の睡眠の質が良くなる等々、皆が良くなる事ばかりで生体エネルギー技術には本当に感謝しております。

また、来年は大阪府河南町に新しく農業法人を開設し、酒米作りにチャレンジします。その際に生体エネルギー資料、設備等を各必要な場へ使用し、高品質なものに仕上げるのに自分自身、長野県でももっともつと学びが必要だと思っております。いつも勉強会での佐藤先生の実践、探究心には感謝いたします。勉強会での先生の言葉で

の重要性が説かれている。中野氏も食とごんちを自ら高めることで、自身の健康と経済的な豊かさを享受できる「想造力」を見いだせるようになったという。

水やりの必要のないカーネーション栽培を体現できたのも、農業者でありながらも自宅を2軒建てて10年以内に借金も返済したうえ、生体エネルギー応用商品に多額の投資をしてお利益を出し続けることのできる経営管理能力を持つことができたのも、自らが手掛ける食に加えて、ごんちを先行投資してつくった影響が大きい。

ここ数年で中野氏の性格が全く変わったと評判になっている。特に電気誘導翻訳装置と「ピクマ」を自宅に入れてからの変化は芳しいという。以前はクセと感じられた中野節のアクが機能化されて、穏やかでも同じ人とは思えないくらい。この変化を見て「あんなに変わるなら私もピクマがほしい」という声まで聞こえてくるくらいに。逆に考えれば、エゴの表出したクセやアクも精神性を高めてくれる環境に身を置くことで栄養素の個性となることを自ら実践して見せてくれている。



中野氏の自宅に取り付けられたさとり「ピクマ」(低圧用)

「宇宙に認められる、未来に認められる」「経営管理能力」等々、毎回本当にビジネス、人生にと活用できハッと自分を内省検討させられる言葉に出会え有難いです。来年は生体エネルギー技術を学び、実践し、また自分を高め社会に役立つ人間を目指していきます。

長野県、生体システム実践研究会様に感謝。

次は、静岡県支部の井口康子さんにバトンタッチします。



レモンの収穫風景

編集部より  
本誌は会員のひとりひとりが作り上げていく会報誌として、投稿された方の声を尊重しておりますが、実践や理論の専門的なことは生体エネルギー研究所に監修を依頼しております。内容により一部表現を変更させて頂く場合がございます。ご了承ください。

No.285

# はじめての一步

リレー投稿 Since 1999



# お知らせコーナー

## ◎1月の本部及び専門部会定期総会について

令和4年度の定期総会は、新型コロナウイルス第8波の先行きが不透明なことから委任状が多くなるのが予想されますので、「書面議決」とさせていただきますことになりました。つきましては、代議員の皆様には1月中旬に総会資料一式を送らせていただきます。確認後、書面議決書にてご返信をお願いいたします。

何卒、ご理解とご協力の程よろしくお願い申し上げます。

## ◎1月の本部勉強会について

現在のところ1月27日(金)～28日(土)の2日間の日程で開催を予定しておりますが、コロナ感染状況により中止になる場合もございますことを予めご了承ください。

1月の本部勉強会の案内は真和1月号に同封されます。

## ◎お休みのお知らせ

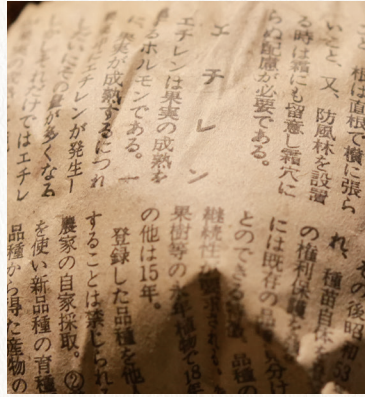
年末年始、お休みを頂きたいとお願い申し上げます。

12月29日(木)～1月5日(木) 皆様、良いお年をお迎え下さい。

## ◎真和1月号の到着日について

真和1月号は、発送の関係で早いところですと年内に到着となりますことをご了承ください。早く開けていただいても、楽しみはとっておいて元日になったら開封していただいても・・・)

# 新潟支部のこぼれ話



中野農園の梨は、ひとつひとつ丁寧に紙でまかれて、さとり「ピクマ」の環境で養生されている。実はこの紙にも隠し味があると教えてくれた。写真で見ただけだとわかるように、農業辞典的な内容が印字されていて、この情報も梨の加算する情報(環境)としてつかっている。そうなる紙に印字された内容によって、一個一個味の深みが微妙に違っている可能性が高い。あらゆる情報を使いこなすために会員が実践していることの一端を見せてもらった。

# 今後の日程

その他	支部			本部		勉強会・イベント	お問合せ先
	新潟支部	長野支部	静岡県支部	本部勉強会	水に産産を託す会		
■農業経営者研究会				2,3		12月	02008(0)41436 senery@chive.ocn.ne.jp
■研究員研究会		10	25		27,28	1月	
■印の勉強会は参加者に規定がございます。お問い合わせください。※今後の新型コロナ情勢により変更する可能性があります。						2月	

# 編集後記

今年も1年間、一番最後の編集後記まで読んで頂いた皆様には感謝申し上げます。毎月発行する本誌の編集部長を拝命したお陰で、毎月欠かさず実践するチャンスを受けました。最初は締切が嫌でした。なにかたなかった「ヒヨッコ」が、今では「なんとでもできる」と思えるようになり、この6年で70冊。自分でも積み重ねた軌跡とここで得たもの(皆様との縁とかけがえのない能力)に驚きます。

「つげみ」と「じうしみの」を志向する実践は、必ず能力として返ってくると感じています。1000人の会員が1000のお役目を全うできたとき、社会も変わり始めると思えます。「少ない」の存在になりきるために来年も尽力する所存です。

来年もよろしくお願いたします。どうぞ良いお年をお迎えください。

編集部長 大野純平

## 生体システム実践研究会報

発行 生体システム実践研究会  
 幹事長 栗田康弘  
 編集 大野純平・金田直子  
 監修 生体エネルギー研究所  
 印刷 株式会社ジャパンスリープ  
 題字 山川宗休老大師

「真和」編集部  
 〒02005051 長野県東御市滋野甲4-9-7-3  
 TEL: 02008(0)41436  
 FAX: 02008(0)11900  
 E-MAIL: senery@chive.ocn.ne.jp



2022年12月号  
 第28巻 第012号/通巻334号